

## 会 議 録

会議の名称	第5回 戸田市自治基本条例推進委員会
開催日時	令和5年4月25日(火) 午後7時00分～午後8時30分
開催場所	戸田市役所5階 大会議室A B
委員氏名	<p>◎□ 横山 誠      ○□ 岩本 恭幸      □ 木本 篤史          ■ 芳賀 良      □ 細井 翔太      □ 宮澤 正          □ 小野塚 加代      □ 宮澤 浩二      □ 浅生 和英          □ 古屋 としみつ      □ 牧野 秀平      □ 長尾 愛子          ■ 松下 啓一</p> <p style="text-align: right;">( ◎委員長 ○副委員長 )          ( □出席 ■欠席 )</p>
説明のために出席した者等	
事務局他	市民生活部協働推進課 峰岸課長、江口副主幹、秋山主任
議 題	(1) 答申について (2) その他
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別紙のとおり

(会議の経過) 4 / 25 第5回戸田市自治基本条例推進委員会 会議録

発言者	議題・発言内容・決定事項
委員長	<p>1 開会 委員の紹介</p> <p>2 挨拶 横山委員長あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>議題(2) その他</p> <p>本日の会議時間と内容を考え、次第の内容を一部変更して進めていきたい。まず初めに議題(2)その他についてご報告いただき、その後議題(1)答申についてグループごとのディスカッションに移りたいと思う。</p> <p>では、まず3月25日に実施した啓発活動について当日参加された委員からお話しいただきたい。</p>
委員	<p>3月25日「第7回さくらパルまつり」にて、啓発活動を有志6名と事務局2名の併せて8名で実施。今までどおり、入口付近で来場者にリーフレットとマンガパンフレット、リスのイラスト説明が入ったエコバックを配布することと併せて、今回はブースでの展示とクイズ配布、参加した人に景品としてメモ帳を渡すという試みを行った。子育て世代の来場者が多く、クイズのヒントを伝える中で、直接来場者と話す機会となり、自分自身の自治基本条例の理解や解釈も深められたように感じた。これこそ啓発活動といえるのではないか。今後また啓発活動に参加する機会があれば、今回の経験を活かし、ブースの活動に重点を置きたいと感じた。</p>
委員長	<p>私は所用のため片付けのみ参加したが、啓発活動に参加した委員には、来場者に対して「この催しに参加したこともまちづくりの一つである」というメッセージを伝えてほしいとお願いした。また、今回はブースでの活動を行うにあたり、クイズとメモ帳の作成と実施については、事前に皆様の承認を得る場がなかったため、私と副委員長にて</p>

	<p>承認した。次に啓発活動でブースを出す機会があれば、活動内容について委員の皆さんから意見をいただいて実施したい。今後も啓発活動を継続していければと考えている。</p> <p>事務局より今回と今後の啓発活動について補足などあれば説明願いたい。</p>
事務局	<p>委員会資料 4、5 ページ及び参考 1 について説明。</p> <p>今回参加した「さくらパルまつり」は、今年度に施設の開設 10 周年に合わせ、来年 3 月「さくらパル大祭り」と称して少し大きく開催したいとの話で、その際の参加について声掛けを既にいただいている。次回の委員会で今年度に啓発活動が実施可能な行事を調整した上で提示したい。</p>
委員長	<p>啓発活動の報告と説明について、委員の皆様からご質問はあるか。</p>
委員	<p>私も今回啓発活動に参加した。来場者は 10 歳未満の子供も多く、一生懸命クイズに取り組んでくれた。しかし、「漢字が読めない」「内容が難しい」との声があった。そのため、次回は展示パネルやクイズにふりがなをつけた方が良いと思う。</p>
委員長	<p>他にも意見や提案などあれば、是非次回に生かし、今後の啓発活動がもっと良くなればと思う。</p>
委員長	<p>次に、自治基本条例啓発リーフレットの配架と広報 5 月号の掲載について、事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>自治基本条例啓発リーフレットについては、委員会資料 6、7 ページのとおり、有志委員 6 名で、令和 4 年 11 月から計 2 回のワーキング会議などを経て完成に至り、令和 5 年 3 月末に市内の公共施設 24 か所に配架し、5 月は市内のセブンイレブン、ファミリーマート、郵便局、第一生命にもお願いをした。また、戸田市のホームページ上でもワーキングメンバーのコメントと共に掲載を行っており、より多くの方の目に触れ、興味を持ってもらえればと思う。</p> <p>広報 5 月号の掲載については、令和 5 年 5 月号より全戸ポスティングに切り替えとなるタイミングに合わせて、自治基本条例の特集記事を 1 ページ掲載することとなった。内容は参考 3 のとおりで、リーフ</p>

	<p>レットのイメージに合わせ、出来る限り読みやすくした。5月1日には市内の全戸に届くため、是非見ていただきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>事務局の説明について何か質問はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>(特になし)</p>
<p>委員長</p>	<p>次に、Zoomを利用した研究会の実施について私からお話したい。 資料7ページと参考4の会議録のとおり、2月21日に「第二回 Zoom de まちづくり」と題し、宮澤委員が発題者となり、町会長をされている喜沢1丁目町会の特徴や課題解決に向けての取り組みなどをお話いただき、その後、参加者より感想や質問、提案などを行った。 次回は5月23日に実施したいと考えている。委員で唯一の学生である細井委員よりZ世代から見るとまちづくりについてお話いただき、進めていきたいと思う。若い世代の意見はとても興味深く、これからのまちづくりに必要な新たな視点に気づかされることも多いと思う。詳細は事務局経由で連絡するので、積極的な参加をお願いしたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>議題(1) 答申について</p> <p>それでは議題(1) 答申について進めていきたいと思う。 この委員会は最終的に市長の諮問に対して答申をする形である。委員の意見を生かし、皆さんの言葉で具体的な答申を行うことが、市長にとっても分かりやすく、現実的なものと認識していただくことに繋がると考えている。 そのため、今回は、皆さんの答申案を4つの骨子に分類し、それぞれの内容を具体性のあるものにするため議論した。内容は前回の会議録と資料3ページのとおりである。今回も、より多くの意見を色々な視点から具体的に出していただき答申を作っていく。 とはいえ、この委員会だけでは4つの骨子について2つのグループで話し合ったことをバランスよくまとめていくのは難しいと考える。そのため、次回7月の委員会でディスカッション結果の全体像の提示ができるように、10月の委員会では答申素案が提示できるように、意見をまとめるワーキングチームを有志で募りたい。ワーキングチームは副委員長を中心に進めていただきたいと考えている。</p>

副委員長	<p>具体的な内容やスケジュールについては、副委員長から説明いただきたい。</p> <p>私たち委員の言葉で具体性のある答申を作ることが、結果的に市長に実行してもらうことに繋がると思うので、委員会の日とは別で、答申案を作成していくワーキングチームを作成したいと考えている。</p> <p>5月末あたりに1回、8月末あたりに1回、の計2回、昨年リーフレットを作成した際のワーキンググループのように、出来れば対面で集まる機会を設けたいと思っている。</p>
委員長	<p>今のワーキングチームについてご質問はあるか。</p>
委員	<p>(特になし)</p>
委員長	<p>今日この場で、ワーキンググループを作ることについての承認をいただきたい。承認いただける方は挙手願いたい。</p>
委員	<p>(全員挙手)</p>
委員長	<p>では、有志となるが、ワーキングチームに参加いただけるかたを募りたい。私はできれば3者協働で進めるのが自治基本条例の理念でもあるので、3者にご参加いただきたいと思っている。それでは、ご参加いただける方は挙手願いたい。</p>
委員	<p>(委員7名挙手)</p>
委員長	<p>事務局からは何かあるか。</p>
事務局	<p>本日の会議後、早速第1回のワーキング会議について日程調整を行いたいので、残っていただきたい。</p>
委員長	<p>では、今日のグループディスカッションの進め方について、事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>前回に引き続き2つのグループに分かれ、4つのテーマについてお考えをお話いただき、意見交換をしていただきたい。</p>

委員長	特に進め方について意見がなければ、このまま話し合いを始めてもらいたい。
委員	<p>《答申の骨子の4つのテーマについて、2グループに分かれて話し合いを行う》</p> <p>(グループ1の内容)</p>
委員長	前回からの引き続きの議論を行う。まずは一人ずつ考えを述べていただきたい。
委員	市民活動を支援していくなかで、認証システムをつくるというアイデアが前回の議論で出てきた。つくったとしても、使われなければ意味がない。企業も巻き込んでその道のプロを市民活動グループに派遣するような仕組みがあっても良いと思う。行政の既存の仕組みとして、共創企画課の戸田ラボがあるのではないか。
委員	若い人のまちづくりが必要であると考え。町会では、高齢の方が役員を担っていて、子供会もなくなり、若い層が抜けてしまっている。若い人から若い人へまちの発信をするのが良いと思う。私たちでは若い人たちの発想自体が思いつかないので、若い人に任せて、発信する内容も考えていただくのが良いと思う。
委員	私たちの地区は外国人住民が多い。町会の担い手は、比較的若く、防災にも力を入れている。そのなかで高齢者の方が避難するとき、手伝う人が必要であると感じている。町会運営の担い手を増やすには、子どもの野球などスポーツ団体のコーチを引き込んでいきたい。
委員	ボランティア・市民活動センターでの団体の登録についてみると、登録用紙には決裁の印の欄が8つある。これが認証なのかなと思う。
委員	ボランティア・市民活動センターに登録するという認証もあるが、登録しなくても市民活動をしている人はたくさん市内にいる。そのような人たちの活動がまちづくりにつながっており、「まちにとってありがとう」となるようにするには、どうするか。

<p>委員</p>	<p>以前から市内でチームを作り、自転車に乗る活動や、ウクレレを演奏したりしている。みんなで自転車に乗りながら、行政としてここにこういうものがあるといいな、と考えている。こういった活動からサイクリング連盟を立ち上げ、行政に働きかけを行ってきた。そのうちに、市の委員会のメンバーを任されるようになった。</p> <p>また、ウクレレの活動を通じて北部球場で町会や市内企業と協力し、イベントを開催することとなった。新型コロナウイルス感染症の影響で、イベントが開催できなかった期間が長いため、これを復活させるにも難しいという声が多く上がっている。地理的に行くことができない人もいるので、ほかの場所でもイベントを開催したいと思っている。好きなことをしているうちに、その活動が結果的にまちづくりにつながっている。</p>
<p>委員</p>	<p>上から「やれ」というのではなく、皆さんの活動が市民活動につながる。そういうのがいいなと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>そういう人たちを認証するのが必要だよな、という話になってくるのではないか。だれが作るのか、どこの課がやるのか。認証が受けられるとインセンティブとして何か支援を受けられるのか。市議会議員が認証の仕組みを監査するというのもあるのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>影響力のある団体からの認証なら価値があると思う。例えばミシュランの星のようなイメージ。しかし、この委員会からの認証で特別感が増すとは考えずらく、現実的ではない気がする。</p>
<p>委員</p>	<p>認証があるかないかというより、同じ思いの人が集まり、団体を設立し、活動するのか、しないのかの方が大事だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>市民が特定の問題について集まって議論する手法で、アイデアソンやハッカソンというスタイルがある。アイデアソンとは、「アイデア」と「マラソン」を掛け合わせた造語で、アイデアソンでは個人またはグループ単位で特定のテーマについてブレインストーミングを行い、生み出されたアイデアの優劣を競い合う。ハッカソンは、人材育成と同様に、交流することで繋がりを作ったり、モチベーションが上がったりする効果があるとされている。</p>

	<p>例えば、市民参加型で、地域課題にどのように取り組んでいるのかコンペを行い、優秀な内容を市長に答申していくなど、そのようなことが主催できる組織にこの委員会がなることができないか。</p>
委員	<p>活動団体を設立し、様々な市民活動を動画で配信していくのはどうか。</p>
委員	<p>(1グループまとめ)</p> <p>市内の様々な活動について、発信していくことが必要ではないか。また、若い世代へのアプローチとして、既存の戸田市公式LINEや、公式YouTubeの活用、これらのツールを活用した意見集約や、市民活動の紹介動画の配信、啓発活動の一環として、公式LINEへのお友達登録者へのプレゼント企画など、若い世代を取り込んでいくことも必要ではないか。</p>
副委員長	<p>(グループ2の内容)</p> <p>今日は、より具体的なお意見をいただきたいと思う。まずは一人ずつ、考えてきたことを話していただきたい。</p>
委員	<p>前回話していた内容を具体的に考えてみた。</p> <p>情報の発信については、電子広告が無関心層に効果的だと思ったが、相当の広告費をかかってしまう。そう考えると、今回委員会で作成したリーフレットは安価で効果的と考えた。</p> <p>団体同士のつながりについては、市民活動団体が集まるイベントを開催するのはどうか。集まると、お互いの団体のつながりが生まれやすいのではないか。</p> <p>市民活動に興味がある人へのアプローチについては、八王子市の退職者向けイベントや長野市の市民活動サポートセンターの活動がヒントになるのではと思ったが、イベントを定期的実施しているようではなかった。</p>
委員	<p>まず、情報の発信についてだが、戸田市の公式LINEを活用するのが一番効果的だと思う。簡単なゲームなど遊び心も取り入れたら、もっと見てくれる人が増えるのではないか。</p> <p>また、つながる場については、現在私の町会では月1回、町会会館を提供してNPO主催のフードパントリー、こども食堂、町会の射的の</p>



副委員長	<p>3つがコラボレーションした催しを実施している。町会主催のイベントより人が集まっていると感じており、頻度や場所を広げていきたいと思っている。実施している市民活動を輝かせることが必要で、魅せる場を作ることが一番だと思う。</p> <p>今、コロナ禍を経て、集える場、リアルの場に飢えている市民活動団体も多いのではないかと感じる。市民活動団体でバス旅行などのイベントも面白いのではないか。</p>
委員	<p>まさに地域活性化の成功例だと思うが、続けていく中での課題などはあるか。</p>
委員	<p>フードパントリーはとても人気で、一週間で定員が埋まってしまう状況。そのため、もっと開催頻度を増やしていきたいが、資金の限界がある。また、本来の趣旨とは異なる富裕層が多く参加している。コミュニティの場と考えると制限はしたくないので、他に工夫できないか模索している。</p>
委員	<p>前回話した無関心層へのアプローチとしての広告について、費用がどの程度かかるか調べてみた。まず、電子広告についてだが、川口市がJR京浜東北線の車内で実施しており、1週間で50万円ほどかかっていた。予想以上に高いと感じた。また、駅構内の看板広告については、1か月で10万円とのことで、これも高く感じた。YouTube広告は回数を予算上限に合わせて決める方式で、1日1000円から設定できるとのことだった。調べた中では、YouTube広告がよいと思った。</p> <p>せっかく色々と興味深い事業やイベントを実施していても、そもそも知らないと参加できず、つながるチャンスもない。そのため、広めることに力を入れないのはもったいないと感じる。ただ、予算を考えながらではないと、電子広告の実施は難しいとも思った。</p>
副委員長	<p>前回の3つの話について考えた。</p> <p>1つ目のボランティアのマッチングについてだが、子育て世代の親は「子にボランティアをさせたい」となると、必然的に親も参加することとなるため、子どもにターゲットを絞るのも一つではないかと考え、長期休みの前に学校にピラを配るのはどうか。</p> <p>2つ目のシルバー対策だが、会社を定年後引きこもりがちになるた</p>

	<p>め、高齢者医療費がかかっていると仮定すると、定年前に企業にボランティア参加を促すビラを配り、定年の人に渡してもらうのはどうか。マッチングサイトを利用するのも効果的ではないかと思う。</p> <p>3つ目の情報発信については、前回の委員会でアンケート調査を実施した際、まちづくりに興味のある人の連絡先を得ているため、こちらから情報発信の仕組みを作り、活用すればいいのではないか。</p>
委員	<p>戸田市内の企業に協力してもらい、市民活動団体の活動をバックアップしてもらいしくみをつくるのはどうか。興味があっても、インターネットや SNS の情報だけを頼りに市民活動団体に飛び込むのは、とても勇気がいるし怖い。そのため、企業が紹介していると、参加しやすい流れができ、企業もイメージアップにつながるのではないか。</p>
委員	<p>情報発信に関しては、戸田市の公式LINEを活用すべきである。市内の危険箇所や破損物を通報できたり、災害時にも情報をもらえたり、とても魅力的な機能がついている。また、自分の興味があるジャンルのみ絞って通知を受け取ることができるようになっている。</p>
委員	<p>現在、戸田市の公式LINEの友だち登録者数は約7000人くらいである。一度に7000人もの人に情報発信できると考えると有用だと思う。</p>
委員	<p>もっと登録者数が増えればより有用性が高くなるが、どうすべきか。</p>
委員	<p>「友だち登録すると、何か特典がもらえる」というのが手っ取り早い方法である。啓発活動のその場で友だち登録してくれたら啓発品をあげるというものいいと思う。</p>
委員	<p>確かに、クーポンがもらえると友だち登録してしまうことがある。</p>
委員	<p>飲食店や買い物をできる企業に協力してもらい、ペイペイなどのキャッシュレスのキャンペーンなどとセットにしてみてもどうか。</p>
委員	<p>町会の掲示板に公式LINEのポスターをただ貼っても、登録する人は少ないと思う。何か特典があるといい。</p>

委員	何か少し特典があるなど、動機付けがあるかないかの差は大きいのではないかと思う。
委員	お金はかかる話になってしまう。
委員	でも市の公式LINEを使えば、色々と幅が広がるのではないか。公式LINEを登録することで戸田市民であり、戸田市に参画しているという意識づけ手段にならないか。
副委員長	戸田市公式LINEを活用しようという話は、自治基本条例だけの話ではない。他の財源を使ってよいことだと思う。
委員	戸田市公式YouTubeもお金がかからない方法なので、同じように活用できないか。
委員	YouTube 動画を見てもらう人を増やすのは難しい。
委員	Z世代の人が自治基本条例のPR 動画を作ってみるのはどうか。
委員	戸田市として発信できるのは、戸田市としても発信する個人としても有益だと思う。また、その機会の提供をしてもらえるのはありがたいこと。
委員	現在、戸田市公式YouTubeの登録者数は2000人程度。思った以上に動画がアップされているが、再生数が伸びていない。
委員	ただ情報発信するだけでなく、興味を持ってもらえそうな面白い動画を交えてもいいだろう。
委員	先ほどのフードパントリーを取材してもらうのも面白いのではないか。
副委員長	市の課題の見える化についてはどうか
委員	この委員会で市の課題を調査するのは難しいのではないか。

委員	もし市職員が市の課題を見えていないのであれば問題である。
委員	市の公式 LINE の通報機能により、市民から課題を吸い上げることができるのではないかと。
委員	市民からの要望を全部叶えるのは難しいと思うが、その中のいくつかは叶うことが分かれば、意見を出す人が増えるのではないかと。
委員	ニーズの掘り起こしをして見えてくるものがあると思う。
副委員長	つながる場についてだが、先ほどの町会の取り組みについて、他の町会に広げていくためにはどうしたらよいか。
委員	ボランティア人では難しい。また場所の確保も必要である。応援する人は沢山いるが、誰が先頭に立つかが一番の問題。
委員	<p>(2グループのまとめ)</p> <p>情報発信の方法として、市の公式 LINE や YouTube を活用してはどうか。具体的には、市の公式 LINE に市民活動団体や自治基本条例のアイコンを増やすと使いやすいのではないかと。また、登録者数を増やすために、特典を設けるのはどうか。</p> <p>公式 YouTube では、町会活動を流すなど、市の様子をアップすることでまちづくりのきっかけにできるのではないかと。</p> <p>《以上でグループ討論終わり》</p>
委員長	<p>今回の答申は、実行性のあるものにしていければよい。</p> <p>先ほどのワーキンググループの方に整理していただき、次回の委員会で、より精度の高いものにしていければよいだろう。</p> <p>4 事務連絡</p>
事務局	<p>次回の推進委員会については令和 5 年 7 月下旬に開催予定である。</p> <p>5 閉会</p>